

## 令和6年度入学式 学長祝辞

新入生の皆様、学部あるいは大学院へのご入学おめでとうございます。本学に入学をされる皆様に心から歓迎いたします。保護者の皆様にも、心よりお祝いを申し上げます。

新入生の皆様の中には、大学生活への期待に胸が膨らむと同時に、勉強について行けるか、友達ができるか、といった不安をお持ちの方もいらっしゃるかもしれません。毎年入学式を迎えると、私自身の入学式を思い出します。私は、地方から東京に出てきたのですが、緊張感ばかりで、隣りの同級生におずおずと挨拶し、硬く微笑んだりしたように思います。

大学での友人は、末長くお付き合いする可能性が高いです。なぜなら、最後の「学友」だからです。学生時代に親しくなって、卒業後も長いお付き合いになるケースも多いと思いますが、私には、むしろ卒業してから親しくなった友達も大勢います。いろいろな可能性を秘めた大学での交友関係。気負わず、自然体で過ごすのがお勧めします。まずは、良いスタートが切れることを願います。

さて、本学は昨年2023年に創立100周年を迎えました。ということは、今年は、新たな100年のスタートの年です。皆様とともに、次の100年のスタートを切ることとても嬉しく思います。

本学の創立者、大江スミは、100年以上前にイギリスに留学し、帰国後、日本における家政学の普及に力を注ぎました。女子教育に、並々ならぬ熱意をお持ちでした。熱意があるからこそ、時には、周りの人々との意見の衝突もあったようです。そのような中、人一倍努力した末に、本学院を設立されました。

家政学の教育方法について、大江先生には、信念がありました。その信念に基づく教育理念が、KVA精神として受け継がれています。Kはknowledge 知識、Vはvirtue 徳性、AはArt 技術の頭文字です。知識はもちろんのこと、実践的な技術を身につけることが必要です。そして、さらに大切なことは、徳性を身につけることである、というのが大江先生の教えです。

本学での学びでは、知識に加えて、実習や演習などの実践的な学びを通して、技術を高めることができます。例えば、食物学科や人間栄養学科では、段階を踏んで調理実習を行っており、作った料理の美味しさが、学年が進むにつれて確実にアップするという話を聞きます。これは、試食の機会のある本学職員の方の声ですから、信用できます。

大学生活の魅力は、勉強だけではありません。サークル活動など、学生の自主的な活動も大切です。時には、挫折感を味わうこともあるでしょうが、集団としての活動や、人との関わりの中で、多くの学びがあります。

皆さんは、いろいろな情報をキャッチして、興味を持ったものにぜひチャレンジしてください。すぐにできそうなチャレンジは、学内イベントやサークル等への参加です。さらに、社会経験としてのインターンシップや、海外語学研修、そして留学などを若い内に経験しておくことは、かけがえのない財産となることでしょう。

本学では、この4月から、キャリア支援センターを立ち上げました。段階的なキャリア教育やキャリア支援に、より一層力を入れて行きますので、ご期待ください。

最後に、最近知ったある女流作家の言葉が、強く印象に残ったので紹介します。宮島未奈さんという方が、こうおっしゃっています。「『夢はかなわない』と誤ってしまいがちですが、『かなってしまう未来があるよ』と伝えたいです。」その方には、「順番が回ってきた」という経験があったそうです。例えば、結婚して子どもが欲しかったけれど、3-4年ぐらいできなかった

そうです。できた時に、「今だったんだ」と思ったそうです。そして、作家デビューできた時も、同じ気持ちで、「順番が回ってきた」と思ったそうです。

先のことはわからないけど、思い続けて、行動し続けていると、何らかの形で「順番が回ってくる」ということがあるような気がします。継続は力なり。努力を続けていると、「順番が回ってくる」ことがあるのではないかと私も思います。

本学における学びが、「順番が回ってくる」ことに繋がって行くことを願って、私の告辞いたします。

令和6年4月3日  
東京家政学院大学長 鷹野景子